

団体名	国立大学法人 新潟大学						
事業名	国際医学生週間						
実施期間	平成30年7月25日～8月4日						
場 所	新潟大学、県内の医療機関と観光施設						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	27		17	5	8	1	58名

<実施内容>

本事業は新潟大学が日露間で25年以上に渡り実施してきた双方向性の人材育成プログラム「夏期医学生交流プログラム」の一環として実施した。主な目的は、学生が海外での修学や交流を通じ、世界各国の現場における医学教育、研究、医療の現状を見聞し、未来医療の共通認識を醸成させることである。本学と協定校で相互に学生を派遣する「夏期医学生交流プログラム」のうち、外国人留学生が本学に滞在する期間を特に「国際医学生週間」と定め、学生の国際交流への参加を促した。本年度は、7月25日から8月4日にかけて、過去最多となる計27名の医学生をロシア、中国から受入れた。本学学生は留学生とともに国内の第一線研究者によって英語で行われる特別講義に参加したり、留学生の滞在サポートや歓送迎会の運営、観光案内に従事したりして、勉学面、生活面双方から国際交流に携わった。期間中の共通言語はすべて、英語とした。

具体的には、留学生は医学部医学科や本学脳研究所に配属され、教授陣から直接指導を受けた。新潟大学医歯学総合病院も見学し、最先端の医療機器やヘリポートによる緊急搬送体制を学ぶことができた。学外視察も組み込み、魚沼基幹病院(南魚沼市)、小出病院(魚沼市)を訪れ、高齢化や過疎化の現実と地域医療の仕組みについても見識を深めた。講義面では、本学以外の研究者(東京大)がレクチャーをしたり、本学教授陣らが日本の医学教育システム、本学医歯学総合研究科(博士課程)への入学方法を解説したりして、研究・医療に係る総合的な情報を提供することができた。研修を終え、新潟大に戻って研究をしたいと話ず学生がおり、本事業の大きな成果の一つといえる。

文化体験面でも多彩な催しを組み込んだ。具体的には、留学生の歓送迎会、週末の市内観光、長岡大花火大会への参加などを盛り込み、日本人学生にも多数参加をしてもらった。参加した日本人学生は、今回受入れたロシア、中国の各大学へ、8月末より本学から派遣される学生たちである。終始英語を使ったコミュニケーションに徹し、留学生の観光サポートに奮闘した。交流を通じ、日本人学生たちは、8月末の派遣を控え、派遣先大学の学生たちと親交を深めることができ、留学前のよい準備期間とすることができた。

<記録写真>



地域医療を学ぶ留学生＝小出病院



手術室の見学＝新潟大学病院



留学生歓迎会＝新潟大

<参加者からのコメント>

Varvara Yarotskayaさん(ロシア)

I've had amazing time here not only working in hospital, but also observing Japanese culture and getting to know new people. I was studying in Pediatrics department. All doctors and nurses were very nice and helpful, they told me a lot about their work and answered my questions. For me as important as my studies was my communication with Japanese colleagues. I've broaden my medical horizons, I've gained some knowledge of medical ethics and patient-doctor communication. I've met a lot of really nice medical students. In my humble opinion this opportunity to make connections for future doctors is extremely important.

Tian Wenqiさん(中国)

I am excited that I can study in the Neurosurgery Department of Niigata University, which can do the best brain surgery in Japan. And the team can not only do the best surgery, but also the good research. As my major is neurology, when he read the application that I wrote, he asked me whether I wanted to see the department of neurology for a day or two. His consideration touched me a lot. Moreover, they took me to taste delicious Japanese food. I am really appreciated that I am in such a warm family. I hope I can study here in the future.